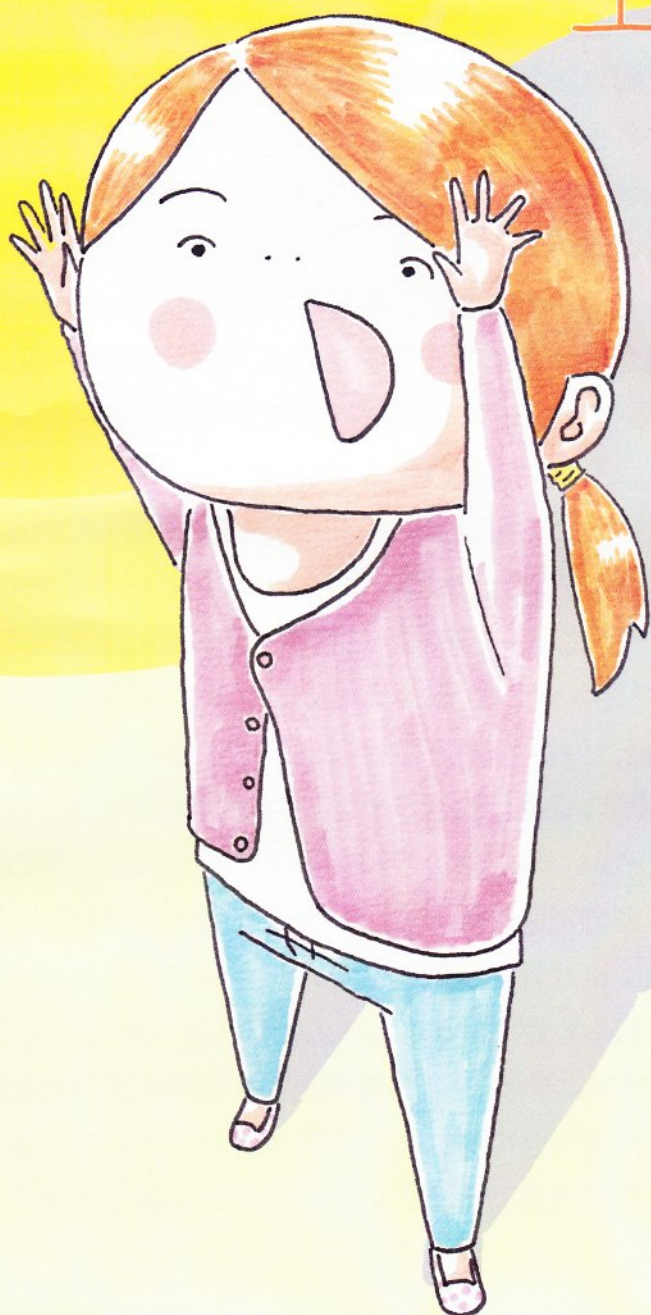


平成 24 年度
第 37 回曹洞宗青年会 東北地方集会

山形大会

生きっだねえ

いのちの準備体操



日時 平成 24 年 11 月 13 日 (火)

会場 ホテル メトロポリタン山形
山形テルサ



主催 / 山形曹洞宗青年会

主管 / 東北地区曹洞宗青年会連絡協議会

後援 / 全国曹洞宗青年会 曹洞宗山形第一宗務所



ご挨拶

東北地区曹洞宗青年会連絡協議会

会長 稲田 泰久

本日ここに、第37回曹洞宗青年会東北地方集会「山形大会」がここ山形市で開催されるに当たりまして、御来賓の御尊宿老師の御尊来を仰ぎ、東北各地より多くの会員の皆様方のご出席を頂き、ここに開催されますこと厚く御礼申し上げます。

まずもって、東日本大震災発生以来、1年8ヶ月の月日が経過致したわけでございます。その間、復興に向けての多大なるご支援をご継続頂いている中、各地各会員の皆様の胸中には、それぞれの思いが去来されておられることと存じます。あらためましてお亡くなりになられた方々に心よりご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災地の復興と福島原発事故被害の一日でも一秒でも早く終息することの願いが増すばかりでございます。

さて、昨年の震災を受けまして、今大会におきまして、「命」についての講演と仏教音楽や「命」の称賛ともいえる声明、さらに中国楽器の二胡の演奏を一般の方々と共に聴いて頂き、「自分の持っているひとつの命だから大事にしよう。自分の持っているひとつの命だから活かしていこう。」というテーマに沿った事業をご企画頂きました。まさしく「命の大切さ」「命のありがたさ・尊さ」を感じ取って頂ける大会となっております。

この東北地方集会の意義と致しまして、研鑽と親睦を深めることは元より、東北六県の青年宗侶が一堂に会し、諸先輩方から受継がれて参りました法縁を継承し、日頃の研鑽・実践をもちより相互の思いを語り合い、今を精一杯務める考えを共有し、次の世代へと伝えていくことを共に再確認できる場でございます。

本大会が成功裏に無事圓成され、東北青年宗侶として、「東北はひとつ」のスローガンがより強固なものになることを確信致してございます。

最後になりますが、本日まで大会のご企画・ご準備・運営等を頂きました山形曹青二ノ戸会長様はじめ、山形曹青大会実行委員会の皆様方のご労苦に対しまして、衷心より御慰労と御礼を申し上げまして、甚だ簡単措辞ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

大会実行委員長
山形曹洞宗青年会会長

二ノ戸 亮昌

第37回東北地方集会「山形大会」を開催するに当たり、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、また遠路多忙のところ多数の会員諸宗師のご参集ご出席を頂き、心より歓迎と御礼申し上げます。

東日本大震災の犠牲になられた方々に、心からの哀悼の意を表すると共に、被災した皆様と心を寄り添い復興の思いを共有していきたいと存じます。

私達は東日本大震災をそれぞれの立場で経験し、いのち、生きるという事に正面から向き合う事となりました。多くの命が失われ、多くの命が助かりました。その助かった命を持つ者私達は、命ある者への思いと、生きる事の希望、生きる事の苦しみをそれぞれが感じ、自分以外の多くの人々の事を知ったと思います。これらの山形曹洞宗青年会会員達の経験や思いが今回の記念事業『生きっだねえ いのちの準備体操』につながっています。

記念事業は一般の方々を対象として、第一部として島崎敬三老師から「菩薩と共に今を生きる」の講演、第二部として塩野大雄老師より「南無大悲観世音」の声明、第三部として山本大雲師より二胡（中国の弦楽器）の演奏という内容です。三部とも、いのちがテーマとなっており、三部合わせて一つの内容となっております。

特に記念事業に参加した方には、その出来事との出会いから、自分以外の命を持つ者に対し小さな何かを思い、その小さな何かを行動に促すきっかけになればと思っております。

最後になりますが、この大会、記念事業のためにご尽力を賜りました皆様にご感謝申し上げますと共に、参加者皆様の益々のご多祥をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

記念式典次第

14:00 開式
於 ホテルメトロポリタン山形

◇ 開式の辞

◇ 仏祖諷經

導師 東北地区曹洞宗青年会連絡協議会会長

- ・ 殿鐘三会
- ・ 七下鐘導師上殿
- ・ 上香
- ・ 普同三拝
- ・ 般若心經
- ・ 回向
- ・ 普同三拝

引き続き

◇ 東日本大震災被災物故者供養

- ・ 小鐘一会
- ・ 大悲咒
- ・ 回向
- ・ 散堂

◇ 大会会長挨拶

東北地区曹洞宗青年会連絡協議会会長 稲田 泰久

◇ 大会実行委員長挨拶

山形県曹洞宗青年会会長 二ノ戸 亮昌

◇ 祝 辞

◇ 来賓紹介

◇ 決議文採択

◇ 次期開催県発表

◇ 絡子伝達

◇ 次期開催県挨拶

◇ 閉式の辞



以下の文は、10月20日(土)山形新聞朝刊に掲載された、島崎老師との対談を大会広告として出したものです。関係者の強い要望があり今回掲載いたしました。

曹洞宗青年会東北地方集会山形大会開催記念「いのち」を考える対談

私たちがこの世で与えられている、この「いのち」。その重さを痛切に感じさせた昨年の東日本大震災とそれに続く日々、県内から被災地に黙々と通い、被災の人々の悲しみ、苦しみに寄り添い、生活を支援しようとする人たちがいた。そして、今も。彼ら、山形曹洞宗青年会が思いを共有し、国内外で、生きることの在るべき姿などを語り掛ける曹洞宗の前特派布教師・島崎敬三(しまぎ けいざん)老師=北海道=と、同会会長で見瀧寺住職の二ノ戸亮昌(にの と りょうしょう)師=山形市=が秋の一日、心を込めて、「いのち」について語り合った。

祈り願い、人のために何か…

—この1年半、被災地で頑張られました。

二ノ戸 車のガソリンが調達でき、石巻と南三陸町に入れたのは3月末。眼前に言葉で表現できない惨状が広がっていました。それ以来、20回以上、延べ3000人が物資を届けたり、炊き出しをしたり。非常時ということで300食の学校給食を届けたことも。心に残るのは気仙沼での炊き出し。「魚が食べたい」という避難所の方々の希望に、山形からカツオのたたきを持参しました。皆さん、喜んでくださったが、ある避難所では、何も言わず、黙って食された。後で分かったのですが、口を開き、おいしいと語り合うと、そのうち口論になる。長引く避難所生活は人々をぎすぎすさせていたといいます。お互いめめよう静かに食べていたのです。

この内情を教えてくれた女性は青年会のメンバーに、海の方を見ながら「あの辺に潮の流れのたまりがある。そこに主人もいると思うんだ」と話したそうです。行方不明のご主人のことを思いながら、こうも語ったといいます。「山形は温泉も有名だよね。私、温泉にも行きたいんだ…。ゆっくりしたいんだ」。生きるということは、本当にすごいことだと、ただ、ただ思います。

—島崎老師、ご所感を。

島崎 私は生まれつき左足が不自由で、坐禅など修行はきついこともあったのです。だが、昨年5月には曹洞宗管長禅師さまの名代として北米大陸を横断し各地で布教しました。機中、空港内などは全て車椅子移動となり、手助けしていただく。だから迷わずに海外旅行もできる。北海道から遠路、車椅子でやって来たことと知ると、私の話に熱心に耳を傾けてくださいます。

多くの障害を持ち、そして人々を教え導いたヘレン・ケラー女史は「障害という不幸を乗り越え、素晴らしいですね」との問いに「多少の不自由さはあっても私は決して不幸ではなかった。それがあれば周囲の理解不足から来るのでしょうか」と答えた。味わうべき言葉であり、人生の困難と積極的に向き合うことが大切なのです。女史のような充実もあるかもしれません。

昨年の大震災後、テレビで、両親が行方不明の幼い兄弟が避難所運営をけなげに手伝う場面がありました。「父さん母さんがテレビで見て、ぼくたちに気付けばいいなと思って頑張っている」という言葉に涙しました。

仏教では、お釈迦(しゃか)様が生老病死の問題と取り組み、老い、病、そして死を受け入れます。だからこそ、今を懸命に生きよ、と。

「無常」に気付き、懸命に生きる

—温泉に入りたい、という避難所の方のお話と、老師の受け入れて生きるという言葉、どこか重なって聞こえます。

島崎 つらいことを、受け入れる。例えば「無常感」と「無常観」。前者は、感想文の感であり、かわいそうだ、お気の毒など自分の感性で捉え、なおかつ自分を高みに置き、人ごとのようにしています。己(おのれ)が入っていない。これに対し、観音様の観の無常観は、自分自身もやがて散りゆく桜であると観ずる、思い定めること。その悲しみ、つらさの中に自分も置き、しみじみ考えてみる。そこで初めて無常観が生まれるのです。曹洞宗のご開祖・道元禅師さまは、自分の感性、エゴの中からものを見れば、全て不平不満、迷いの根源になる、と説かれました。逆に、全体からその事象をしっかりと見れば本物、真実が見える、と『正法眼蔵』で述べておられます。

不幸に直面し、それを受け入れがたく悲しみに浸る。それでは食欲も元気も出てきません。ここから、たった今から、現実を受け入れ出発することが、懸命に生きることだと思えます。悲しみはいつまでも続かない。物事は常に変化するという「無常」も心に留めてください。きのうまでの私たちはどこにもいない。日々新しい「いのち」なのです。

— 老師のお話からは、生きるということの緊張感、ひたむきさが伝わってきます。この対談の主題は「いのち」ということ。まず、会長からお願いします。

二ノ戸 被災地、そして東北、全国の生き残った人々も被災者だと思います。その「いのち」をどう活(い)かし、使うか。老師が言ったように被災者のために祈り、願うことが大切です。自分以外の人々のことを思うこと。小さなことでもいいから人のために、何かをしてみよう、と思ひ立ち、何かをしてみるということだと思えます。被災地で、物資の支援だけでなく、話し相手など、個人と個人のつながりも含めた活動をしている中で、「いのち」について、学び教えられることは多いと実感しています。

— 「いのち」の問題、老師からお願いします。

島崎 先ほど申したように日々、新しい空気を吸い、新しい「いのち」をいただく。昨日までのあなたは、もういない。できるだけ捨てて、捨てていく。あの人に何をされた、とか、したということも。そして、この「いのち」をどう使うか、という時は、正しく、明るく、仲良く、そしてみんなと共に幸せでありたいと願う。願って生きる。仏教とは、生きのまま、仏様のようになる教えです。たった今、この瞬間瞬間の生き方なのです。そしてできなければ何度でもやり直せるというのが、み仏の慈悲なのです。

私たち仏教に仕える者は、人々の死、葬儀で感情に溺れることなく冷静にお釈迦様の遺言、お言葉を読む。その時、「そうだな、このお姿がやがて自分の…」と一番身近に感じます。死に対し、「いのち」の危うさに対し敏感になっている。だからこそ「じゃあ、どう生きればいいのか」を考える。そして厳しく、つらい修行を経ている私たちは、人々の苦しさ、悲しさ、被災者のお気持ちなどが幾分なりとも分かります。言い換えるなら、つらさ、悲しみを体験した人は相手の立場も分かる、ということ。どんな言葉、無言のまなざしが励まし慰めてくれるか、痛切に体験した人は、自分に勇気を与えてくれた、本当にやさしさが分かります。

会長さんが言った「生き残った私」という見方は、いいと思う。残された私たちが何をなすべきか。それは、亡き家族、友人、知人たちが私たちに望むことであり、どうか幸せに、そして人のため世のために生きてくれ、ということでしょう。それが亡き人に対する一番の供養だと思うのです。自分の存在が、誰かのためになることほど幸せなことはない。誰かのために手を合わせ、祈るだけでもいい。そこで得られるほんわかとした、幸せ感に包まれる。それこそが宗教的満足感でしょうね。

「いのち」を活かし使う、たった今から

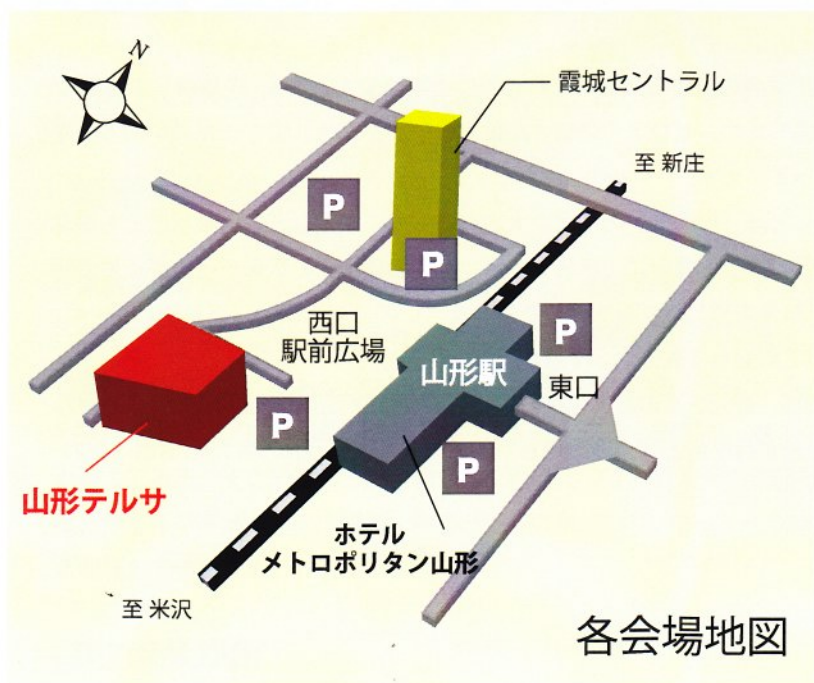
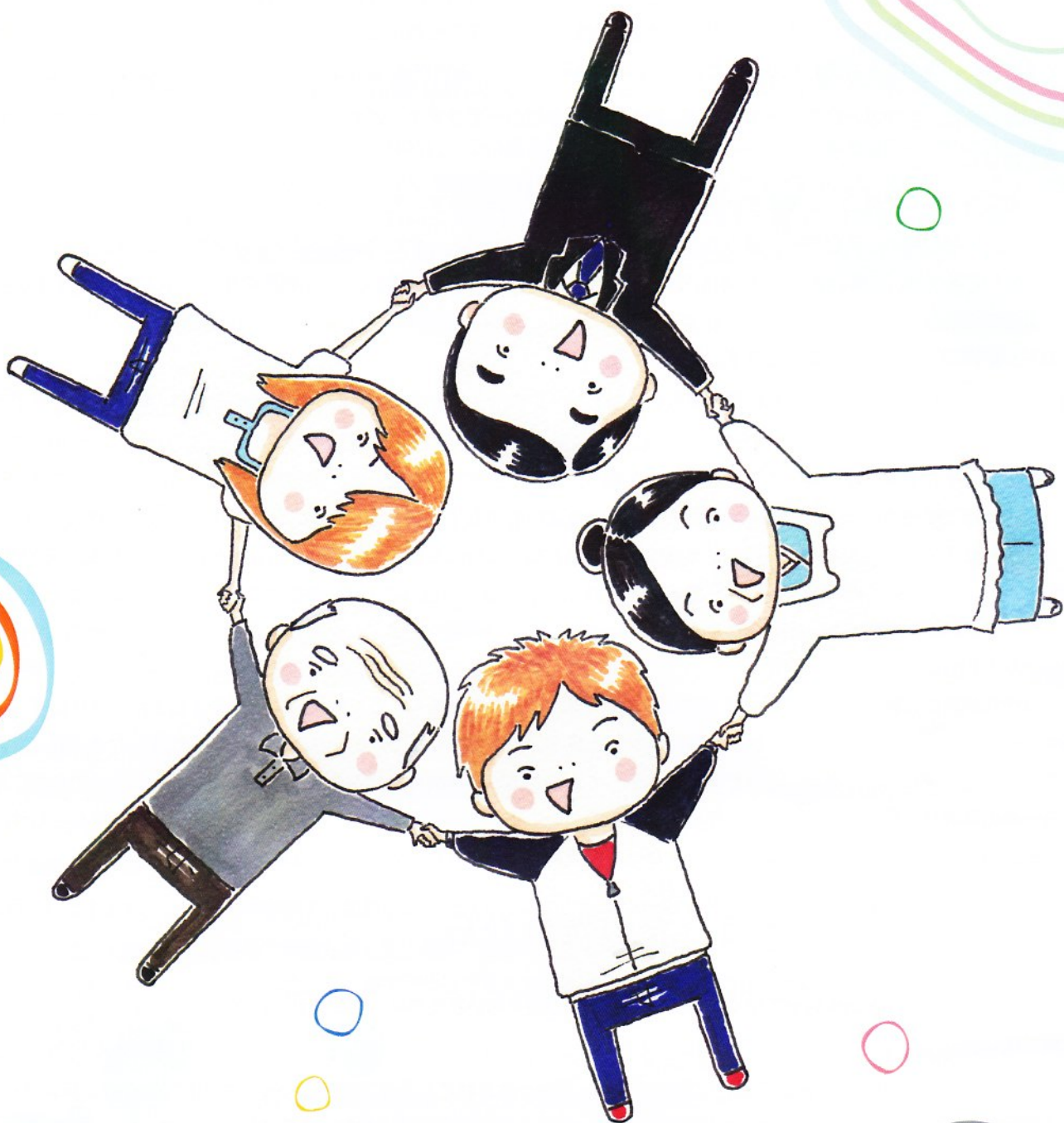
—最後に、これからの人生と向き合っていく人々、迷い、悩みの絶えない私たちに、お二人からのメッセージを。

二ノ戸 「いのち」は目には見えない。見えないものを敬う、大切にすることだと思えます。「いのち」1個を支えるのに、どれだけの「いのち」、背景があるのかということに気付くこと。自分が生まれてくるまでの祖先からの生命のつながり、目には見えないその連環に敬意を表すことで、「いのち」の大切さも身にしみてくる。一つの「いのち」は、決して、孤立した一つではないということに気付き、「いのち」を活かし、使っていたきたい。

来月13日に山形市で開催の曹洞宗青年会東北地方集会山形大会の記念行事では島崎老師のご講演や「いのち」を讃嘆(さんたん)する声明(しょうみょう)、そして二胡(にこ)演奏などがあります。ぜひ多くの皆さんにおいでいただき、皆さまが「いのち」を活かすための何かを得る、「準備体操」の場になれば、と願っています。

島崎 道元さまは、自らを敬うべきだ、と説いた。「自ら」とは「いのち」のこと。太古から戦争、飢えなどの極限状態でもつながってきた「いのち」。これは奇跡的な存在でもあります。受け継ぎ、懸命に生きましょう。宗門の駒沢大の駅伝チームが正月の箱根で、たすきをつないでいく光景は、いつも私に道元さまの教えを想起させます。いただいた「いのち」を敬い、リレーしていく。先の見えない人生を頑張る生きよ、という教えを。頑張る頑張る生きよ。それが曹洞宗の基本です。

私たちは、生きとし生ける者、幸せであれ、というお釈迦様、道元さまの教えに従い、人々がそうなるようにお手伝いするだけ。成功しなくとも、愚直でも、百点満点でなくとも皆さんが自分自身を何となく愛(いと)おしく思えるように、私たち僧侶はお力添えさせていただきたいと思えます。



山形県曹洞宗青年会事務局

〒990-0861

山形県山形市江俣3-1-15 高松寺内

TEL 023-684-1148

FAX 023-681-8701

イラスト/遠田旭有 デザイン/庄司倫明

御祝辞

①全国曹洞宗青年会会長

松岡広也 宗師

②曹洞宗山形県第一宗務所所長
山曹青第2代会長

佐々木俊雄 老師

③曹洞宗宗議会議員
東北地協第2代会長

葦原正憲 老師

御来賓

- 葦原正憲 老師 曹洞宗宗議會議員・東北地協第2代会長
- 三吉由之 老師 曹洞宗宗議會議員・山曹青第7代会長
- 結城俊道 老師 曹洞宗宗議會議員
- 佐々木俊雄 老師 曹洞宗山形県第一宗務所所長・山曹青第2代会長
- 松岡広也 宗師 全国曹洞宗青年会会長
- 平清水公宣 老師 東北地協第9代会長
- 伊串泰純 老師 東北地協第14代会長
- 葦原憲義 宗師 東北地協第15代会長・山曹青第15代会長
- 檜山武浩 宗師 東北地協第17代会長
- 鈴木祐孝 老師 山曹青第8代会長
- 渡邊禅悦 老師 山曹青第10代会長
- 鈴木修史 老師 山曹青第14代会長
- 岡田秀一 宗師 山曹青第16代会長